寺報みょうとく

題字 松川裕子

浄土真宗本願寺派妙徳寺
（安芸教区志和組）
発行責任 寺報編集委員会
東広島市八本松町飯田六〇二
電話〇八二-四二八-〇一四四

川上仏教婦人会連合について

前回少し触れましたが、八本松川上地区の仏教婦人会が川上仏婦連合を組織し、法座を開催しています。またそれぞれの仏婦の行事などに参加し合うなど、交流や協力をしています。

七月二日（日）にその川上仏婦連合法座を今年度妙徳寺仏教婦人会が担当となって、妙徳寺を会場にして行いました。妙徳寺仏婦の皆さんがお掃除やお飾りなど準備し進行役となって、寿福寺仏婦さんと天龍寺仏婦さんを迎えて交流、一緒に献花・献灯・献香をして開会（上写真）、法座では講師の清崗祐子師のご法話をともに聴かせていただきました。また休憩などでのおしゃべりがちょっとした楽しみでもあります。ひょっとしたらここにこれからお付き合いが生まれる、新たな法友との出会いがあるかもしれません。

来年の担当は寿福寺仏婦さんです。迎えられる立場で参加させていただきましょう。

安芸教区東部仏教壮年大会

安芸教区東部地区とは旧賀茂郡域のことをいいます。ここにある七十三の本派寺院は昔から付き合いが深い関係にあります。もともと「賀茂奥組」としてまとまって交流していたそうですが、範囲が広すぎることから五十年以上前に四つに区分、「賀茂東組」三十ヵ寺、「東広島組」二十二ヵ寺、「黒瀬組」八ヵ寺、「志和組」十三ヵ寺となりました。それでも「何か協力して行事をしようじゃないか」という声が上がり、仏教壮年の大会が立ち上がったと聞いています。今回の大会が第四十三回目、志和組が担当いたしました。

昨年の大会は黒瀬組担当で六月十九日（日）せせらぎホールを会場にして行われました。それを受けすぐ発足した志和組の実行委員会、各寺仏壮から代表者数名を選出、三十二人の実行委員会を組織して大会の企画運営を図っていただき、以来約一年をかけ、合計十回の会合を重ねて準備してきました。六月十八日（日）佐伯葬祭フォレストホールを会場に四組から二百六十六人の参加をいただき、無事大会を終えることができました。昨年は感染症拡大防止に配慮して食事なしの半日大会でしたが、今年は何とか例年通りをめざし、九時半開始で十五時終了の食事ありで実施することができました。

大会が多くの参加者皆さんに喜んでいただけたことも大事ですが、なにより実行委員が一年をかけて大会のために準備してきたことがとてもありがたく思います。反省会では役目を終えた実行委員会は解散となるけれども、それでも引き続き「互いに交流し続けよう」と申し合わせることができました。

ここにもこれからお付き合いが生まれる、新たな法友との出会いがありました。今後の集まりが楽しみです。

上写真は大会の様子。左写真はゲストに来てくださった安仁屋宗八さんと志和町出身の清老寛子さんです。先日、ニュースで安仁屋さんが緊急手術をお受けになったとありました。術後は順調だとのことでしたので安心いたしました。またお元気になられて、テレビなどでお話の続きをお聞かせいただきたいと思います。

ライン登録のお願い

風水害や土砂災害、震災なども毎年頻発しており、急な予定変更などをすぐに連絡をお送りできる方法を持っておくことは必要なことだと思います。

そこで最近多くの方がご利用されているラインアプリを使って、行事の情報をお送りすることといたしました。通常は定期的にまたは行事前にご登録いただいた皆さんに一斉配信することとし、非常時の配信にも備えてまいりたいと思います。

なお、お寺にお参りいただくたびにポイントをつけていただくお楽しみもつけました。法座だけでなくお参りいただくたびにポイントを差し上げ、プレゼントを用意することにしています。何があるかは楽しみにしていただきます。

このQRコードを読み込むか、@985fghgy を検索してください

一語法話

一切善悪の凡夫人、
如来の弘誓願を聞信すれば、
仏、広大勝解のひととのたまへり。
この人を分陀利華と名づく。

「正信念仏偈」より

【意訳】その人がどんな人であっても、阿弥陀仏の全ての人を救いたいという願いが届きそれを信受することができれば、釈迦仏はその人を阿弥陀仏の広く大きな智慧を獲得した信心の人であり、「三千年に一度しか咲かないような分陀利華」つまり清浄な大白蓮華のように得難い人と誉めたたえてくださるのです。

（次頁へ続く）

行事予定

新型コロナウイルス感染リスク軽減を目的に法座回数を当面減らすこととしています。ご注意ください。

八月 四日（金） 午前九時より 法座
午後一時より 物故者追弔会、法座

盂蘭盆会（うらぼんえ）

講師 大和町椋梨 明圓寺
内藤 良照 師

八月 六日（土） 午前八時

広島原爆記念日

（本堂でお参りの後、みんなで梵鐘を撞きます）

八月 九日（水） 午前十時半

長崎原爆記念日

（東広島ユネスコ協会との共同行事となります）

九月 十二日（火） 午前九時、午後一時

秋彼岸会（あきひがんえ）

講師 志和町内 西方寺
安國 真雄 師

十一月 二十五日（土）
午前九時、午後一時

報恩講（ほうおんこう）

（詳細は次号でお知らせいたします）

（前頁からの続き）

先日、関西で大学生生活を送っている長男と次男からラインで報告がありました。「二人で京都の本願寺に行ってお参りしたよ、お堂内で結婚式が行われていてねぇー」云々。思いがけないお参り報告を、とてもうれしく思いました。お参りしなさいと言った覚えはないのですが、二人のどちらかが言い出してもう一方が同意したのでしょう。離れていて目が届かないのではありますが、手を合わせることの大切さは伝わっているのだなぁと頼もしく思いました。父親がどれほど至らなくても問題ない、その代わりにたくさんの方々のお支えや多くのよき出会いとご縁をいただいて、大切なことをしっかりと身につけていっているのだ、ありがたいことだなぁと感じるのです。

「蓮は泥より出でて染まらず」。たくさんの経験を重ね失敗もするその折々に多くの方から指導や教えをいただきながら、この先大きなよろこびの人になってほしいものです。

正信偈のこの文節、お経の中にお示しくださっている阿弥陀仏のお心について、苦しみ悲しみの現実の中で「ああそういうことであったのか」と深くうなずきよろこぶことができた人のことを釈尊は「よくぞうけとってくれた」とよろこびおたたえくださるのだ、と親鸞さまはおっしゃるのです。

仏事作法について①

「信は荘厳より起こる」といいます。信仰とはきれいに整えられた仏前で育まれるのであるから、私が手を合わす場を持っているということは大切なのだということでしょう。私たちは「これは大切なことなのだよ」と先人方々から、言葉よりもむしろ姿によって教えられて参りました。この大切な場であればこそ、私たちはその意味を踏まえて美しく丁寧に整えなければなりません。今回から仏事と作法について、数回に分けてお話してみようと思います。

三荘厳のうち「灯明・仏花」

浄土真宗のお仏壇はお寺の本堂内陣を家庭用に小さくまとめたものです。ですから必要なものはすべて一緒です。お仏壇の中心は阿弥陀仏のご絵像やお木像をご本尊として安置しますが、その前をお飾り（荘厳）する方法もお寺と同じ「三荘厳」です。

この三つの荘厳とは灯りとお花と香りで仏前をきれいに整えるということです。そのお道具を「具足」といいますが、つまりこれで足りているということであります。仏さまのお飾りはこれらで十分で、他のものはともかくこれを欠かさないようにしましょうということでもあります。

正式で丁寧なお飾りは「五具足」、でも普段は「三具足」で十分です。お仏壇の大きさに合わせてロウソクやお花の大きさを調節しなければなりません。

まずはじめに灯りについてですが、暗闇を破る仏さまの智慧を表わします。暗闇は私の迷いや悩みであり、そのままでは解決はありません。光にあってはじめてやっと本当の姿に目覚めることができるのです。仏さまの光をいただこう、わが身わが心を照らされていこう、と仏前に明かりを灯すのです。

現代はロウソクだけでなく電気の明かりなど光が身近にいっぱいありますが、一方で灯りのありがたさや尊さが感じにくい面もあるように思います。あらためて一つのロウソクの明かりに照らされて、その光の力とぬくもりを感じる中に仏さまの智慧のはたらきを味わってみたいものです。

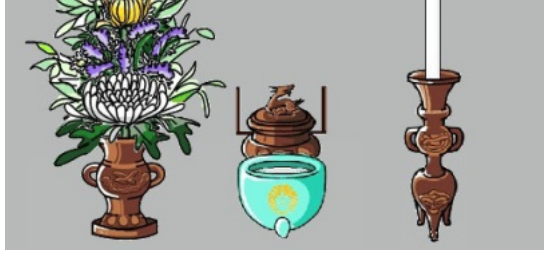
次にお花は仏さまの慈悲を表わします。しずかにその姿をもって私に大切な教えをお示しくださるのです。

花の姿は次第に移ろい、あらゆるものは無常であることをお教えてくれます。盛りのときは見る者に喜び与え、その後は浄土に咲いて三宝を支え、また雲のように集まって仏さまの頭上を飾り、さらにしかるべき時に三千大千世界に広く散り敷くのだ、とお経の中にお教えくださいます。

花には今だけではない、この先にも大切な役割があること、私を、仏さまを、三千大千世界を飾りたたえる尊い役目を負っているのだと驚かされます。だからこそ、今の役割を果たしたならば速やかにお礼とともに処分してあげたいものです。

飾るときには華立ての三倍程度の高さを目途に活けること、またお仏壇の大きさに合わせ、小さすぎず大きすぎないようにバランスを心がけましょう。

続きはまた次号で。



五具足（上）と三具足（下）はこのような配置と決められています。

合同墓・墓地案内

有縁の皆さんでおまもりしている合同墓と一般墓地があります。縁ある多くの方にご利用いただきたいと思います。

妙徳寺ホームページ
http://myotoku-ji.sakura.ne.jp/
内容の更新を心がけています。
みょうとくチャンネルもご覧ください。

志和組テレホン法話「みのりの電話」

082- 433 -4989

7月 1日～	報専坊	松島 典子
7月 11日～	光源寺	堀 靖史
7月 21日～	照栄寺	井口 英隆
8月 1日～	寿福寺	田中 幸恵
8月 11日～	長松寺	笠岡 潤聖
8月 21日～	西蓮寺	西浦 憲雄
9月 1日～	西方寺	安國 晴子
9月 11日～	天龍寺	天野 英昭
9月 21日～	報専坊	松島 純以

志和、八本松川上地区の本派寺院13ヵ寺のテレホン法話です。3分程度のお話を24時間いつでもお聞きいただけます。
ぜひ、電話でもお聴聞してください。

「写経の会」

7月 28日 (金)　8月 25日 (金)　9月 22日 (金)
それぞれ午後2時より
申し込みは 代表_西本さん(428-2466)、または妙徳寺へ

「生きていくための仏の教え仏教基礎講座」

7月 8日 (土)　8月 26日 (土)　9月 9日 (土)
それぞれ午後2時より
申し込みは 代表_廣川さん(428-5935)、または妙徳寺へ

「妙徳寺仏教壮年会例会」（原則毎月第2土曜日）

7月15日 (土) 午後6時より 定例会
8月19日 (土) 午後6時より 定例会
9月 9日 (土) 午後6時より 寺報編集会議

「書道教室」

ホームページ内の「行事カレンダー」に稽古日を掲載しています。妙徳寺LINEでも随時お知らせいたします。
（毎月3回程度の金曜日
午後2時半～午後5時の間）

※金谷雷聲先生(蕾門会)による幼児・児童・大人対象、硬筆・毛筆教室です。
申込は金谷先生のFAX0823-82-9565
または妙徳寺へご連絡ください。

「おみのりサロン」開催予定日

7月 25日 (火)　8月 28日 (月)
9月 27日 (水) 午後2時より1時間半
（住職が本堂に待機、相談をお受けします）